

平成 25 年度「全国学力・学習状況調査」における 中野小学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 25 年 4 月 24 日（水）に、6 年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の原則として全児童生徒
- ・中野小学校では、6 年生 56 名

3 調査内容

- (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・算数 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・算数 B】
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

- (2) 児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

中野小学校

児童数

56

平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	62.5	51.4	80.5	62.8
大阪市	59.1	46.6	75.9	56.4
全国	62.7	49.4	77.2	58.4

平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	6.4	10.4	0.4	3.3
大阪市	11.5	14.2	1.9	6.5
全国	10.7	13.6	1.7	6.3

結果の概要

- 調査教科の平均正答率に関しては、国語 A が全国平均正答率で0.2ポイント低くかったが、国語 B・算数 A・算数 B については、全国平均正答率より高くなっている。
- 調査教科(国語A・B 算数A・B)全般的に、問題に対して、最後まで問題をよく読んで考えや理由を記述することができていた。そのことにより、調査教科すべてにおいて、無解答率が低くなっている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

【取組の成果】

- 国語科については、国語の研究に取組み、指導法等の改善がすすめられ、授業実践にいかされてきたことにより、成果として徐々にあらわれてきている。
- 算数科については、毎年度「基礎・基本の定着」を基本において取組んでいる。また、指導法の工夫等をすすめてきていることが成果として少しづつあらわれてきている。

【今後の取り組むべき課題】

- 今回の全国学力・学習状況調査の結果を真摯に受け止め、本校の課題を明らかにし、課題解決にむけて組織的に取組むようとする。
 - ・「基礎・基本の定着を図る」から発展学習へ=履修から習得そして発展=
 - ・言語力 表現力を育てる
 - ・読書活動の活性化を図る
 - ・学校力の向上 指導力の向上
 - ・学校、保護者、地域との連携

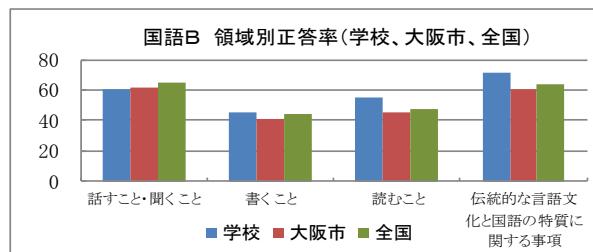
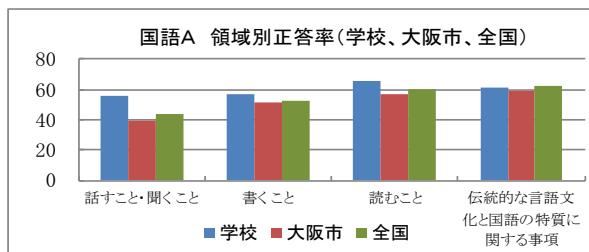
【国語】

結果の概要

- A問題では、全体的に問題をよく読んで答えている。特に、出題の趣旨が「スピーチの表現を工夫する」の選択問題では、しっかりと問題を読むことができていた。しかし、「停車」「設ける」の漢字が正しく書いていなかった。
- B問題では、二人の推薦文を読み比べて読み、読み方の違いを捉える問題で、しっかりと読んで答えることができていた。

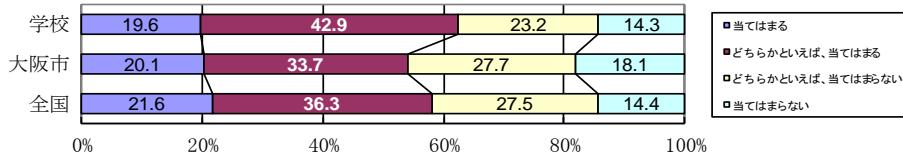
	A 問 題	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	55.4	39.5	43.2
	書くこと	4	56.3	51.1	53.0
	読むこと	3	66.1	56.8	60.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	61.1	58.7	62.6

	B 問 題	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	60.1	61.7	64.8
	書くこと	4	45.1	41.0	43.8
	読むこと	4	55.4	45.1	47.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	71.4	61.0	63.8



国語に関する「児童質問紙」

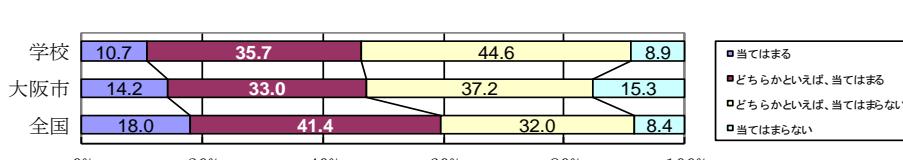
I 53 II 52 III 62
国語の勉強は好きですか



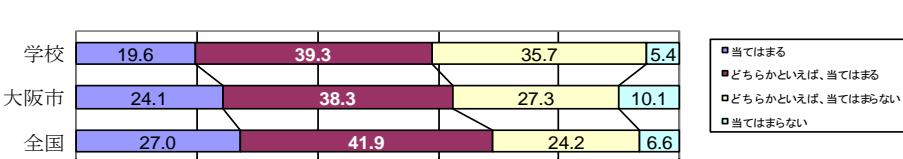
I 55 II 54 III 64
国語の授業の内容はよく分かりますか



I 58 II 57 III 67
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



I 60 II 59 III 69
国語の授業で自分の考えを書くとき、考え方の理由が分かるよう気を付けて書いていますか



成果と課題

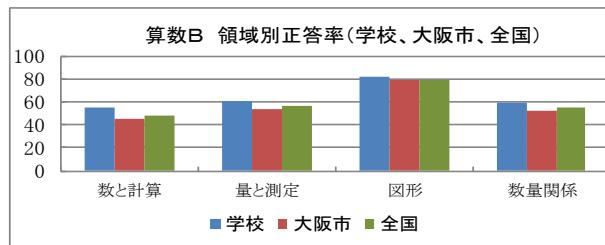
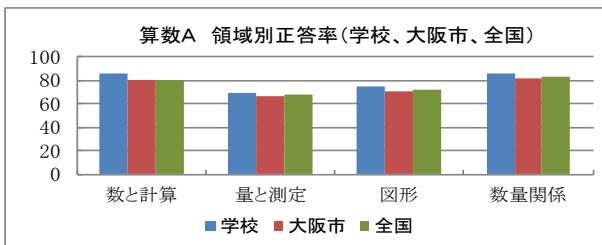
- 「読むこと」に関しては、よくできていた。例えば、文を比べて読み、読み方の違いを捉えることができていた。
- 「書くこと」に関しては、調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確に書くことに課題がみられた。また、文と文の意味のつながりを考えながら、接続詞を使って内容を分けて書くことなど、文の定義に課題がみられた。

今後の取組

- 低学年で文の定義（主語・述語）を確實に指導し、中学年で、初步的な文の構成（修飾・被修飾）を指導。高学年では、いろいろな文の構成（単文・重文・複文等）をきちんと指導する。
- 読み手に伝えたいことが分かるようにするために、具体的な事実などを引用して書くことや引用の仕方等を指導する。

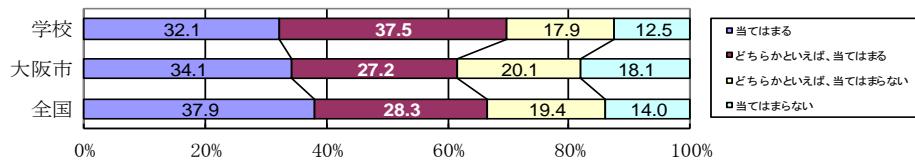
【算数】	結果の概要 ○ A問題では、「測定の目的に応じて、計器を選択すること」については、よくできていた。しかし、「1m ² あたりの人数など単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解すること」に課題がみられた。 ○ B問題では、「ものの位置の表し方を理解し、特定すること」については、できていた。しかし、「二つの数量の関係が比例の関係でないことを記述すること」に課題がみられた。
-------------	--

A 問 題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と計算	8	85.3	79.8	80.2
	量と測定	4	69.6	66.0	68.3
	図形	3	75.0	70.2	72.5
	数量関係	4	85.7	82.2	83.4



算数に関する「児童質問紙」

I 73 II 62 III 72 算数の勉強は好きですか



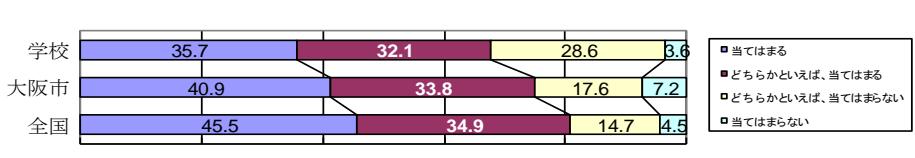
I 75 II 64 III 74 算数の授業の内容はよく分かりますか
--



I 78 II 67 III 77 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用能ないかを考えますか
--



I 81 II 70 III 80 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



成果と課題

- 「計算」や「目的に応じて、計器を選択すること」については、できていた。しかし、単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解することに課題がみられた。
- 図に示された分割の仕方とその説明とを対応させることについてできていた。しかし、二つの数量の関係が比例の関係でないことを記述することに課題がみられた。

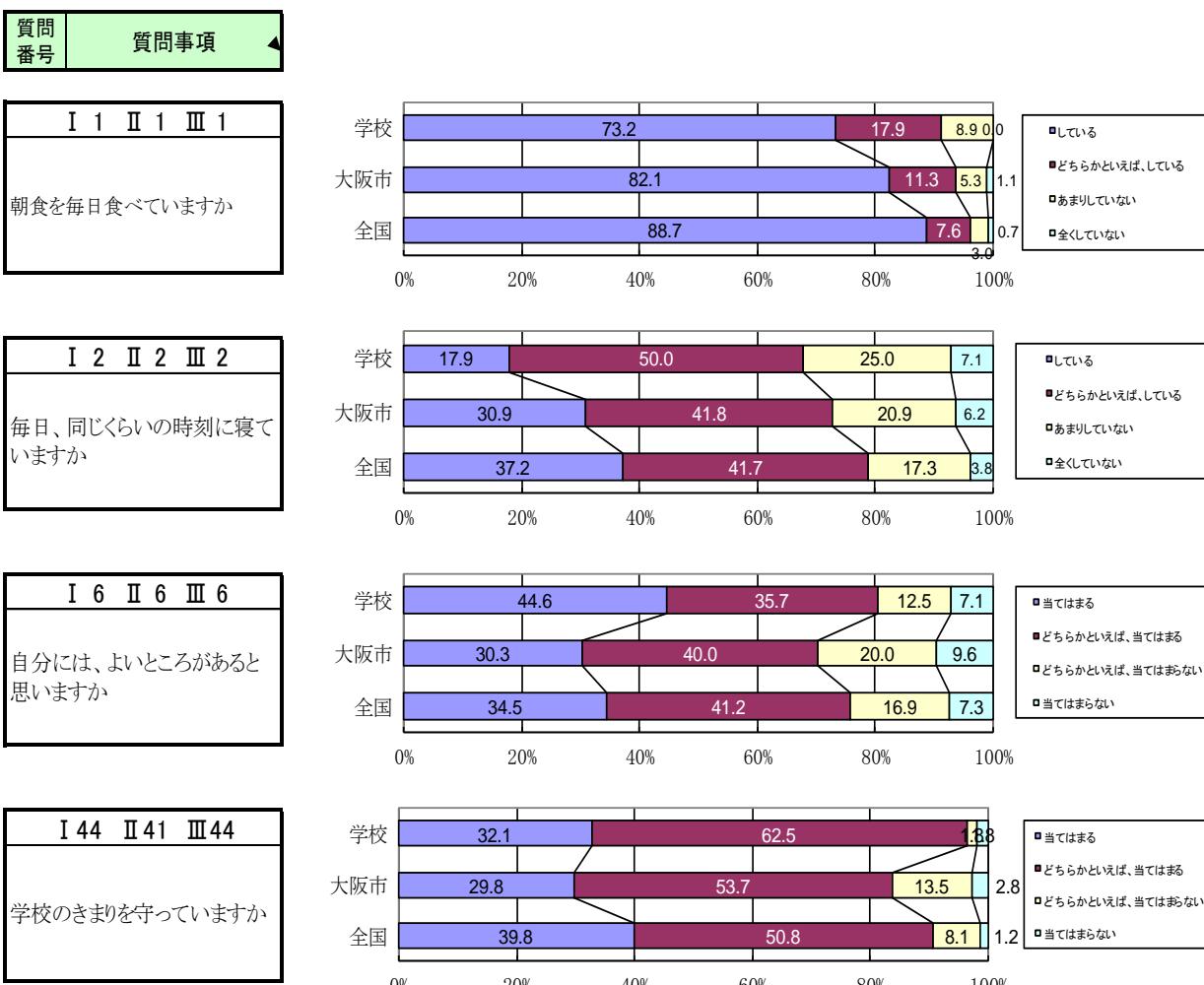
今後の取組

- 二つの数量の変化の特徴を表の数値を基に的確に説明できるようにする。指導に当たっては、基準となる表の数値を設定し、それを基にして、対応や変化の規制性を説明する活動を設ける。
- 単位量あたりの大きさを求める式の意味を理解できるようにする。

基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

結果の概要

- 「自分には、よいところがあると思いますか」では、昨年度より18ポイント向上している。
- 「学校のきまりを守っていますか」の規範意識が昨年度より15ポイント向上している。
- 「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」では、約90%が「なりたい」と回答している。
- 「家の人と学校での出来事について話しますか」では、全国平均回答率より7ポイント低い。
- 基本的生活習慣については、まだ全国平均回答率より低くなっている。



成果と課題

- 生活指導の充実に努めていることにより、規範意識が徐々に向上してきている。
- 本校の教育目標でもある「思いやりのある子」を育てるの取組を推進していることにより、徐々に、一人ひとりの意識が高まってきている。
- 今年度は、「あいさつ」については、昨年度より4ポイント低くなっている。

今後の取組

- 今後も引きつづいて、学校教育目標の「知・徳・体の調和のとれた教育活動を推進する」の達成にむけて地道に取組んでいくことが一つ一つの成果につながっていくと考える。
- 保護者・地域・学校がより連携し、より協力体制をつくり、取組を推進していく。

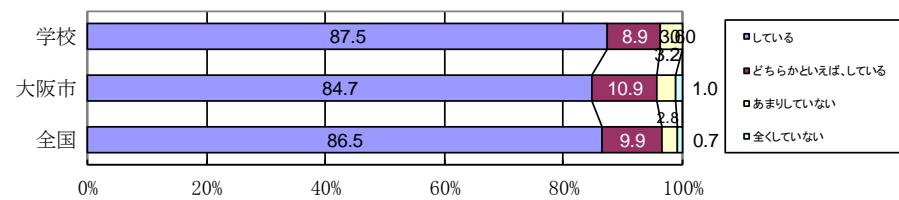
家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

結果の概要

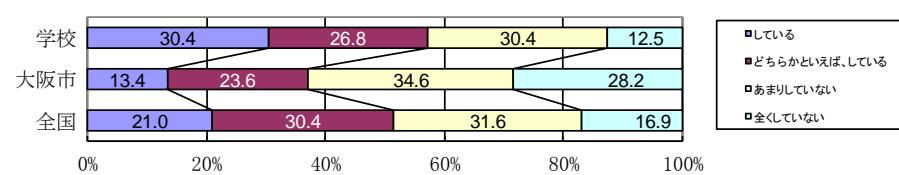
- 「家で、学校の宿題をしていますか」では、「全くしていない」が0%、「あまりしていない」が3.6%となっている。
- 「学校のなどで、自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」では、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」で約66%となっている。
- 「読書が好きですか」では、「当てはまらない」（嫌い）が約18%となっている。

質問番号	質問事項
------	------

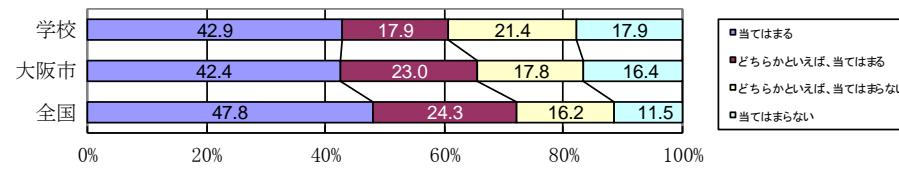
I 30 II 25 III 35
家で、学校の宿題をしていますか



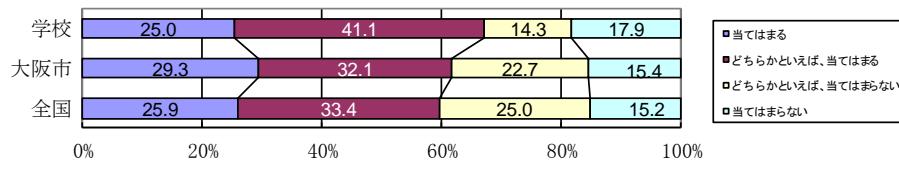
I 32 II 27 III 37
家で、学校の授業の復習をしていますか



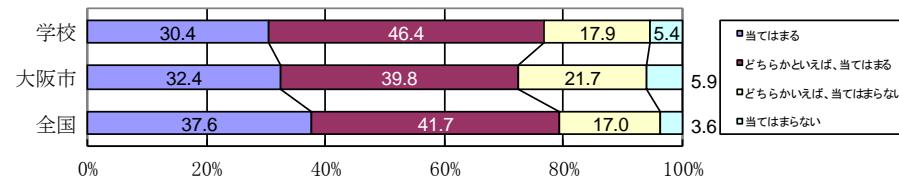
I 56 II 55 III 65
読書は好きですか



I 52 II 51 III 60
学校の授業などで、自分の考え方を他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



I 50 II 48 III 56
普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



成果と課題

- 家での家庭学習の習慣が徐々についてきている。
- 「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか」では、増加の傾向がみられる。
- 「読書が好きですか」では、全国平均回答率より低くなっているが、「読書が嫌い」が約18%あり、見直しが必要である。
- 自分の考え方を他人に説明したり、文章に書いたりすることに課題がみられる。

今後の取組

- 読書活動の見直しを行い、読書活動の活性化を図る。
- 教育活動の中にグループ等で話し合う場面や、自分の考え方を文章にまとめて発表したり、説明する活動を取り入れて表現力やコミュニケーション能力を高めるようにする。